

見通しをもって探究に取り組むことのできる生徒の 育成

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（理科）

氏名 寺澤 龍

新学習指導要領では、中学校理科で目指す資質能力を育成する観点から、見通しをもって探究に取り組むことが重要であるとしている。実習校で行ったアンケート調査の結果、子どもたちには「仮説」を設定して授業に取り組むこと、理科の学習内容と日常生活を関連付けることに課題が見つかった。そこで、見通しをもって観察・実験などを行える生徒、日常生活や社会と関連付けながら主体的に課題を解決しようとする生徒を、目指すべき生徒像として設定した。これを達成するために、見通しを持たせるための授業展開、対話的な学習活動を中心としたグループワーク、ワークシート「学びのあしあと」の活用といった3つの手立てを用いて、検証実践を行った。検証実践は「刺激と反応」と「大気の動きと天気の変化」の2つの単元で行い、終了後に生徒の意識変化を見るため再度アンケート調査を実施した。その結果、検証実践後には「仮説」の設定に関わる質問項目で、より肯定的な回答の割合が増加した。また、理科の授業内容と日常生活の関連付けに関しても、肯定的な回答に増加が見られた。